

NEWS RELEASE

平成28年 6月13日

今年も、夏の必需品「うちわ」を製作しました。

昨年に引き続き、弊社のノベルティとして「うちわ」を製作いたしました。
行員の皆様やお客様にご活用いただければ幸いです。

今回は、「御茶ノ水駅と聖橋」のイラストです。



「聖橋」は、神田川に架かるアーチ橋で、関東大震災後の混乱のなか震災復興橋梁の1つとして昭和2年(1927年)に完成した歴史ある橋です。橋の兩岸に位置する2つの聖堂(湯島聖堂とニコライ堂)を結ぶことから「聖橋」と命名されました。神田川の景観に美しく溶け込んでいる橋として有名であり、「東京」を感じさせてくれる絶好のビューポイントです。

このイラストが「うちわ」になると・・・こちら。

「聖橋」がつなぐ「2つの聖堂」の解説と共にご覧ください。



〈実は、パワースポット 湯島聖堂〉



徳川五代将軍綱吉が儒学の振興を図るため元禄三年(1690年)に創建。その後、寛政九年(1797年)幕府直轄学校として「昌平坂学問所」が開設されました。

明治維新後、「東京師範学校」「東京女子師範学校」が設置され、現在の「筑波大学」「お茶の水女子大学」へと発展しています。まさに、「学生の街・お茶の水」の原点です。

合格祈願では、「湯島天神」が有名ですが、ここ「湯島聖堂」も隠れたパワースポットです。

＜聖堂内も美しい。心洗われるお茶の水のシンボル ニコライ堂＞



正しくは「日本ハリストス正教会教団 東京復活大聖堂」といいます。

日本初の本格的なビザンティン様式の教会建築で青緑のドーム屋根が特徴です。

聖堂内は、美しいステンドグラスやアイコンが飾られ、見学可能です。

今でこそ高層ビルに囲まれてしまいましたが、明治の時代、高台に位置した「ニコライ堂」は東京市中の「ランドマーク」であったことでしょう。

お茶の水界隈は、大学も多く若者の街というイメージから、近代的な建物が
多いかと思いきや、戦火を逃れた明治から昭和にかけての歴史的な建造物が
今も残されています。

「うちわ」を片手に、休日の「お茶の水」散歩はいかがですか。

(本件お問合せ先)

株式会社かんそうしん

総合企画部 03—3253—1331